


 仙台大学 広報室

Monthly Report

2013東北こども博—過去最多の来場者で賑わう



オープニングセレモニーでテープカットする関係者=仙台大学第五体育館

10月12日(土)・13日(日)の二日間、仙台大学を会場にして、大震災からの一日も早い復興を願い「2013東北こども博」(主催:東北こども博実行委員会、後援:文部科学省/宮城県/仙台市教育委員会など)が開催されました。

「東北こども博」は、被災地の子どもたちがおもちゃで思いっきり遊び、スポーツで存分に体を動かすことで、その健やかな成長と笑顔の広がりを願うイベント。今年で三回目の開催となり、約600名の学生ボランティアが二日間に渡り東北こども博を支え、盛り上げました。

12日(土)のオープニングセレモニーでは、東北こども博実行委員長の朴澤学長(仙台大学)・同副会長の滝口町長(柴田町)・同副会長の富山会長(日本玩具協会)が挨拶。その後、着ぐるみのキャラクターたちも加わりテープカットが行われました。また、昨年に引き続き、震災を乗り越えた亘理町立荒浜小学校の児童による郷土芸能の「荒浜ぶちあわせ太鼓」が披露され、太鼓の迫力ある勇壮な響きで幕が上がりました。

【2面に続く】

< 目 次 >

2013東北こども博 —過去最多の来場者で賑わう	1
2013世界体操—OB亀山耕平選手 が「あん馬」で金メダル獲得	2
女川町健康まつり参画—仙台大学 「健康改善度・新体力測定」	4
仙台大学と角田市の連携協力に関 する覚書締結式	4
仙台大学大学祭— 「国際交流講演会」を開催	6
学生の競技結果	7

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

今回は、キャラクターによるステージショー、最新のおもちゃやゲームが体験できる「トイホビー」、みんなが笑顔になれる楽しいスポーツ体験や親子でプラズマカーなどに挑戦できる「スポーツ」、屋台などが並ぶ「お祭り」の3つのエリアに加え、ペットボトル工作やロープワーク教室に参加できる「アウトドア」、世界に二台しかないスポーツハイブリッドカーに乗っての記念撮影・音楽やダンス・ロケット博士の講演会など盛り沢山の「地域連携企画」の2つのエリアが加わり、5つのエリアで構成された多彩なイベントで各会場が賑わっていました。

「2013東北こども博」には、過去最多である18,180名（昨年15,900名、一昨年13,800名）の皆さまがご来場下さいました。誠に有難うございました。



2013世界体操競技選手権種目別決勝 —OB亀山耕平選手が「あん馬」で金メダル獲得



亀山耕平選手の仙台大学時代の「あん馬」の演技
=仙台大学体操場

10月5日（土）、ベルギー・アントワープで「2013世界体操競技
かめやまこうへい

選手権」種目別決勝の「あん馬」が行われ、OB亀山耕平選手（徳洲会／平成22年体育学科卒一埼玉栄高校出）が15.833点で見事金メダルを獲得しました。

皆様からのご声援、誠に有難うございました。

なお、亀山選手の功績が称えられ、仙台市から「賛辞の楯（たて）」が贈られることになりました。11月5日（火）に仙台市役所で贈呈式が行われる予定です。11月7日（木）に母校への感謝を込め、亀山選手は朴澤学長を表彰訪問致します。詳しくは、別途送信される学内メールなどをご参照ください。

平成25年度 東北多文化アカデミー主催・日本語学校入学式



前列左から2番目・朴澤学長、3番目・押谷代表理事

10月1日（火）、留学生のために日本語教育事業を行なっている「東北多文化アカデミー」（仙台市青葉区）で、来年度、本学大学院入学を予定している中国人留学生7名（吉林体育学院・瀋陽師範大学・上海体育学院）の入学式が行なわれました。

留学生たちは、半年間、同アカデミーで本学大学院入学前に十分な日本語教育を受け、修士号の取得を目指します。

留学生たちは、新生活への期待に満ちた輝いた目で、本学の朴澤学長や東北多文化アカデミーの押谷祐子代表理事の言葉を聞いていました。

自己紹介で留学生たちは、片言ながら、覚えてたての日本語を先生方に披露。これからお世話になる先生方から優しくご指南頂き、終始和やかな雰囲気ですべてを終えました。

留学生たちの今後の日本語上達に、大いに期待したいと思います。

<報告：学生支援室 石栗はるか>

仙台大学紀要「ベスト論文賞」



左から2番目が本学客員教授 佐藤和賀子氏＝学長室

ベスト論文賞は、研究活動の活発化と「仙台大学紀要」の質の向上を図るべく、平成21年度に新設された。選考対象となる論文は前年度の紀要掲載の総説または原著で、学外の選考委員5名の選考等を経て決定される。今回は24年度第44巻1・2号および23年度第43巻1号の計6編の中から、本学客員教授 さとうわかこ 佐藤和賀子氏の「朴澤三代治と裁縫教授用掛図」が選ばれた。

表彰は平成25年10月7日（月）、学長室で執り行い、受賞者には表彰状と記念品が贈られた。

選考理由要旨は「ユニークな研究テーマを取り上げた人文科学（歴史領域）の論考として、その資料の蒐集、先行研究の検討、対象人物の業績に関し、十分に評価できる。」ということであった。

<報告：紀要編集委員長>

【著者の声・佐藤和賀子氏】

仙台大学の母体である朴沢学園の創始者朴澤三代治氏は近代裁縫教育の先駆者です。ベスト論文賞をいただいた拙稿「朴澤三代治と裁縫教授用掛図」は、朴澤氏が教室での一斉授業のために教具として作成した裁縫掛図に注目したものです。明治期に作成された掛図や雛形等の裁縫教材は朴澤家の皆様はじめ学園関係者によって戦火の中も守られ現在に伝えられている貴重な教育資料です。その評価は既に仙台市の文化財として価値が認められていますが、わが国の裁縫教育史のみならず近代女子教育史のなかでも評価されるべき資料と思います。今回の受賞を励みに、今後とも朴沢学園裁縫資料の調査研究を継続したいと思っていますので宜しくお願いいたします。

平成25年度 全国地域安全運動宮城県大会「自主防犯ボランティア活動推進功労団体」として表彰



10月9日（水）宮城広瀬文化センターにおいて平成25年度全国地域安全運動宮城県大会が開催され、自主防犯ボランティア活動推進功労団体として本学が表彰されることとなり本学を代表し飯塚公良夫教授に表彰状が授与されました。

今回の表彰は、宮城県内各地域で本学が平成23年7月から開始し現在に至るまで継続的に実施している仮設住宅における健康支援ボランティア活動が認められたもので、特に今回は遠田地区（主に

美里町）において、仮設住宅が開設した当初から運動指導とともに美里町中埠駐在所の警察官等による防犯講話を月1回の実施し、地域の安全活動に尽力した功労に対しての表彰となりました。

表彰ではこのほか防犯作文最優秀賞受賞の小学生による作文朗読や、ポスターコンクール入賞者への表彰状授与があり、その後第二部として、阿部芳吉副学長による「地域で守る子どもたち」と題した記念講演が行われました。阿部副学長からは、子どもたちを守るためには①子ども自ら防犯意識を高めること、②関係機関（学校・地域・警察）の連携が不可欠であることなどが話され、犯罪を未然に防ぐために、地域の見守り活動など地道な活動が防犯に欠かせない要素であることなどが話されました。



表彰を受けた功労団体の方々と共に



宮城広瀬高校吹奏楽部によるマーチングバンド披露

女川町健康まつり参画—仙台大学「健康改善度・新体力測定」



長座体前屈



握力



反復横跳び



6分間歩行



10m障害歩行



立ち幅跳び

10月14日（月・祝）、女川町総合体育館で、女川町・女川町教育委員会主催の「女川町健康まつり」が開催されました。当まつりへは、仙台大学も参画し、総合体育館の一部をお借りして、体組成測定（骨密度測定、脂肪量・骨格筋量測定）・新体力テスト測定を行い、80名弱の方々が測定に参加されました。

東日本大震災以降、女川町の仮設住宅へは週1回、健康づくり運動サポーターが茶話会・健康運動指導で訪れてはおりますが、今般、仙台大学として、文科省の補助金を得て当測定機材搭載のマイクロバスを購入したことから、茶話会・運動指導に加え、新たに体力・健康状態を遠隔地へ出向いて測定できるようになったものです。これにより、被災地の方々の体力低下等を定量的に把握できるとともに、改善指導もより確実に進んでいくようになるものと期待しております。

今回の測定実施に関しましては、仙台大学の教職員10名に加え、学生ボランティア22名も参加し、大学の使命である社会貢献に教職員・学生一体となって実践できたことも有意義なものであったと思います。

<報告：スポーツ健康科学研究実践機構>

仙台大学と角田市の連携協力に関する覚書締結式



協定書を手に握手を交わす朴澤学長(右)と大友市長=角田市役所

仙台大学は10月15日（火）、角田市役所で角田市と連携協力に関する覚書締結式を行ないました。締結式には、本学から朴澤学長・阿部副学長・藤井運動栄養学科長・阿部肇准教授・吉井講師（角田市スポーツ審議会委員）・渡邊一郎事業戦略室長の6名が、角田市からは大友市長・小野副市長・菊地教育長ら6名が出席し、朴澤学長と大友市長が相互に協定書を取り交わしました。

仙台大学と角田市が連携協力して行なう事業内容は、（1）角田市民の健康づくりに関すること、

（2）児童・生徒の健康増進・体力向上及び学校生活の支援に関すること、（3）教員養成や現職教員の研修に関すること、（4）生涯学習及び生涯スポーツ事業への協力に関すること、（5）大学及び学校における教育研究面での協力に関すること、（6）その他双方が必要と認める事業。

締結式で大友市長は「角田市は、人と地域が輝く田園交流都市を掲げ、新たな街づくりに取り組んでいる。少子高齢社会が進展する中で、いかに健康で長生きできるかが大きな課題。地域住民の肥満率低減やスポーツを通して青少年が生きる力を身につけさせたい。仙台大学の力をお借りして、課題解決を図りたい」と話され、朴澤学長は「角田市と仙台大学は、これまでも様々な形で連携協力をさせて頂いていた。正式に覚書を締結することによって、さらに体系化して進めていきたい。仙台大学の専門分野である健康・スポーツの場面で、地域住民の心身ともに健全な生活習慣の確立支援に携わっていききたい」と述べました。

なお、本学における「地域連携協力」に関する覚書の締結は、宮城県・仙台市・柴田町等に続いて12件目となります。

みやぎまるごとフェスティバル2013



10月19日（土）・20日（日）、宮城県庁ならびに勾当台公園、市民広場を会場に、食道楽にはうれしい実りの秋の楽しみと宮城県のいいね！を新発見、再発見できる祭典「みやぎまるごとフェスティバル」が開催されました。本学運動栄養学科からも学科生14名と服部新助手、佐藤幸子新助手、堀江新助手、千葉新助手、西川新助手の計19名が参加しました。

昨年度は『キッズ食育パーク』というコーナーを設け、こどもと子育て世代向けの内容を実施していましたが、参加7年目となる今年度は『みんなの食育コーナー』と幅広い世代を対象に実施いたしました。実施内容は、①「親子でCooking□栄養満点カップケーキ」という親子での簡単な調理体験（1日100食限定）と②「普段食べているお菓子やジュースについて知ろう」というジュースに含まれる砂糖の量やポテトチップスのエネルギー量などに関するクイズを通して知識を深めるものとなりました。

食への興味・関心を高めることや日本人が不足しがちな栄養素を補える簡単なおやつ作りを家庭でも実践できるようになることを目的とした今回の活動は、雨の中でも列ができるほどの大盛況であり、食育の発信に大きく役立ったようでした。

<報告：新助手 西川里美>

【運動栄養学科参加学生】

No	氏名	学年	出身高校
1	及川美雪	4年	宮城・東北高校
2	数又美穂	4年	宮城・白石女子高校
3	金子紗侑莉	3年	宮城・聖和学園高校
4	川田聡子	3年	宮城・蔵王高校
5	小辻美希	3年	北海道・函館白百合学園高校
6	金野摩耶	3年	宮城・聖ウルスラ学院英智高校
7	沢田ひかり	3年	宮城・利府高校
8	阿部佑哉	2年	宮城・古川黎明高校
9	大波千浩	2年	福島商業高校
10	尾崎洋美	2年	北海道・札幌東陵高校
11	小野 匠	2年	山形・米沢東高校
12	菊地 遥	2年	宮城・聖和学園高校
13	伊東里奈	1年	宮城学院高校
14	菅原麻莉	1年	宮城・石巻好文館高校



「健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催



朴澤学長から認定証を授与される穴沢さん
＝仙台大学管理研究棟2階大会議室

10月22日（火）、本学管理研究棟2階大会議室で、本学学生の「健康づくり運動サポーター認定証授与式」が開催されました。今回は、健康づくり運動サポーターとして、初級10名・中級3名の計13名が認定されました。

「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム（実践）を修了することによって認定されます。

朴澤学長より、認定者一人ひとりに、認定証が手渡されました。認定者を代表して、中級資格を

取得した穴沢直美さん（健康福祉学科4年一福島・会津高校出）からは、「健康づくり運動サポーター事業の実践の場では、人前で指導する難しさを感じましたが、経験していくうちに対象者に合わせた指導ができるようになり、実践力を身に付けることができたと思います。もっと多くの学生が同事業に携われるようなカリキュラムを組んで頂ければ、より活発な活動になっていくと感じます」と感想が述べられました。

<報告：新助手 齋藤まり>

仙台大学大学祭—「国際交流講演会」を開催



学生たちを前に呼び、自らのビジネスの成功経験談について再現を交え紹介するStephen E. Buchan氏（左から3番目）
＝仙台大学講義棟B203教室

10月26日（土）、仙台大学大学祭において、ここ数年恒例となっている「国際交流講演会」が開催され、一般の方・教職員や学生を含め、立ち見が出る程多い約200名の参加者が熱心に耳を傾けました。

講演者は、平成21年4月に国際交流協定を締結した米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のStephen E. Buchan氏（専門は経営学）。

『アメリカにおけるスポーツ、リーダーシップ、パーソナルスキルの発展』と題し、ご講演頂きました。同時通訳は、本学の柴田恵里香助教（写真右端）が務めました。

E. Buchan氏は、講演の冒頭に「物事を成就するためには、何かを与えられるのを待つのではなく、自らが進んで求める姿勢が大切である」と述べられ、「日米における文化の違いは何か」・「仙台大学の理念は何か」という問いを参加者に投げかけながら話を進められました。

また、同氏は、自らのビジネスの成功経験談を紹介。ビジネスで成功するためには、顧客ニーズを的確に把握することが重要であり、これは、スポーツビジネス分野でも同様であると述べられました。さらに、ネットワーク（人脈）作りが得意でなければならないことを強調されました。

最後に、（人として）成功するためには、誠実さ・リーダーシップ・コミュニケーション能力・実行力などの特性が重要であると述べられ、講演を締めくくられました。

JR仙台駅2階のクリックビジョンがリニューアル



10月1日（火）から、本学をPRするJR仙台駅2階（3階の新幹線乗り場）に上がる中央エレベーター右手サイドのクリックビジョン（15秒看板）のデザインがリニューアルしました。

次回リニューアルは、平成26年4月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい画像・写真やクリックビジョンに関するアイデア等がございましたら、広報室までお寄せ下さい。

仙台大学スポーツ健康科学研究実践機構—新たに2名奉職

【臨時職員】

伊藤 寿展さん



9月18日よりスポーツ健康科学研究実践機構で健康づくり運動サポーター事業等を担当させて頂いております。地域の方々の健康維持やいきがい、自己実現の取り組みを支援し、共に成長していきたいと思っております。

加藤 琢磨さん



10月15日よりスポーツ健康科学研究実践機構にてタレント発掘、企業支援を担当させていただきます。これまでの経験を活かしながら一生懸命取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

硬式野球部—秋季リーグ戦「三位」が確定／仙台六大学野球



馬場(3)が左越えソロ本塁打を放ち、同点とする
(10月5日・東北学院大学1回戦)＝東北福祉大学野球場

9月28日(土)・29日(日)・30日(月)、仙台六大学野球秋季リーグ第六節「仙台大学—東北福祉大学」が行われ、仙台大学は1回戦、2-7と点差を付けられましたが、2回戦は金澤光基投手(体育学科4年—北海道・札幌創成高校出)が東北福祉大学打線を5安打9奪三振に抑え、2-1(タイブレイク10回)で競り勝ちました。金澤投手のストレートの最速は、146km/hを記録。

勝ち点を期待された3回戦、0-4で迎えた9回表、6番・五十嵐歩(体育学科3年—福島・帝京安積高校出)が右越え3点本塁打を放ち反撃を見せましたが、惜しくも3-4で競り負け、1勝2敗で東北福祉大学から勝ち点を奪えませんでした。

10月5日(土)・6日(日)、リーグ優勝に望みをかけた仙台六大学野球秋季リーグ第六節「仙台大学—東北学院大学」が行われました。仙台大学は1回戦、2-3で迎えた8回裏、7番・馬場康治郎(体育学科4年—宮城・利府高校出)がリーグ通算5本目となる左越えソロ本塁打を放ち同点に追いつきましたが、タイブレイク10回表に6点を奪われ、3-9。その裏、仙台大学は4点を返しましたが、惜しくも7-9で敗れました。2回戦は、2-4で惜敗。全日程を終え、勝ち点3で「三位」が確定しました。

本リーグ戦では、最後まで粘りを見せた仙台大学硬式野球部。これからも、皆様からの熱いご声援をよろしくお願い致します。

全日本大学駅伝—東北学連選抜に西澤賢治と片桐亜子が選出



西澤(左)と片桐＝仙台大学陸上競技場

「第25回出雲全日本大学選抜駅伝」<10月14日(月・祝)>の東北学連選抜に西澤賢治(健康福祉学科3年—青森中央高校出)が、「第31回杜の都全日本大学女子駅伝」<10月27日(日)>の東北学連選抜に片桐亜子(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)がそれぞれ選出されました。

補欠登録ですが初選出の西澤は、「全国から有力選手が集まる大会。吸収できることは何でも吸収し、自分の成長につなげたい。チャンスがあれば走りたい」。4年連続学連選抜に選出され、今年はアンカーを務める片桐は、「最後の杜の都女子駅伝。悔いのないように走りたい。今までお世話になってきた方々への感謝の気持ちを忘れずに挑みたい」と意気込みを語りました。【9面に関連記事】

東北地区大学ラグビーリーグ1部リーグ



後半、2トライを挙げた渡部
＝東北学院大学泉キャンパスラグビー場

10月6日(日)、東北学院大学泉キャンパスラグビー場で、東北地区大学ラグビーリーグ1部リーグ「仙台大学—東北学院大学」が行われました。

前半、仙台大学には全体的に硬さが見られ、0-24と無得点に終わりましたが、後半に入ると、意地を見せ、渡部一誠(健康福祉学科3年—山形中央高校出)が2トライを決めました。しかし、反撃もここまでとなり、後半相手に2トライを奪われ、12-36でノーサイドの笛が鳴りました。

硬式野球部—松本桃太郎が3冠王とMVPに輝く



最優秀選手賞のトロフィーを手に3冠ポーズの松本桃太郎
=仙台大学野球場

平成25年度仙台六大学野球秋季リーグ戦の全日程は、10月14日（月・祝）で終了し、表彰選手が発表されました。本学からは、松本桃太郎三塁手まつもともたろう（体育学科1年—北海道・北海高校出）が、打率.477、17打点、3本塁打で3冠王とMVP（最優秀選手賞）に輝き、さらに三塁手のベストナインにも選ばれました。（本学硬式野球部は三位）

リーグ史上初めて1年生選手で3冠王を獲得した松本は「1年の秋季リーグで3冠王とMVP、ベストナインが獲れて本当に嬉しい。タイトルを受賞できたのは、監督・コーチ・チームメイト全員のお陰です。感謝の気持ちでいっぱい」と笑顔で話し、「（来季の）春季リーグ戦ではリーグ優勝に向け、先輩たちの悔しさと勝ちたいという強い気持ちを胸に、日々の練習を積み重ねていきたい」と力強く語りました。

本学硬式野球部の森本監督は「3冠王は日々の努力の賜物。これから様々な困難や壁にぶつかるかも知れないが、それを乗り越えられる強さを身に付け、さらに選手として成長し、チームに貢献してほしい」と話し、教え子のさらなる活躍に期待を寄せていました。

そして、本学からはもう一名、柳田恭平外野手やなぎだきょうへい（体育学科4年—北海道・鶴川高校出）が初のベストナインを受賞しました。柳田は、強肩強打で勝負強い選手。対東北福祉大学2回戦では、勝利を呼び込む同点本塁打を放つなどの活躍を見せました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。

陸上競技部—佐々木琢磨が「第47回全国ろうあ者体育大会inとやま」の100mで優勝



賞状とメダルを手にする佐々木=学長室

9月14日（土）、富山県五福公園陸上競技場（富山市）で「第47回全国ろうあ者体育大会inとやま」が行なわれ、本学陸上競技部の佐々木琢磨ささきたくま（健康福祉学科2年—盛岡視聴覚支援学校出）が100mで自己ベストを更新する11秒10で優勝を飾りました。また、200mでは、2位に入る健闘を見せました。

佐々木は、両側内耳性難聴による聴覚障害2級のろうあ者。

10月23日（水）佐々木は、本学陸上競技部の藤井部長（写真左端）・柴山コーチ（同右端）と共に、同大会優勝の報告に学長室を訪れました。

今年7月にブルガリアで開催された第22回夏季ソフィアデフリンピック日本代表の佐々木は「自己ベストを更新でき、優勝できて嬉しい。来季に向けて自分の目標（日本インカレ出場）と真剣に向き合い、トレーニングに励みたい」と筆談し、柴山コーチは「佐々木は真面目で意欲のある選手。課題は後半の加速力。この冬にしっかりと走り込んで、一回り成長した姿を見せてほしい」とエールを送りました。



筆談でやりとりする朴澤学長と佐々木

杜の都駅伝—東北学連選抜・片桐亜子主将(仙台大4年)がアンカーの大役を果たす



両手を挙げゴールする片桐主将=仙台市役所前市民広場

10月27日(日)、宮城県仙台市で「杜の都第31回全日本大学女子駅伝」が開催され、出場した26チームが、仙台市陸上競技場から仙台市役所前市民広場までの6区間38.0キロを力走しました。

本学陸上競技部からは、東北学連選抜(オープン参加)の主将に選出された片桐亜子かたぎりあこ(体育学科4年—宮城・聖和学園高校出)がアンカーを務め、第6区(5.2km)を19分16秒のタイムで走り切り、大役を無事に果たしました。東北学連選抜は2時間17分34秒(オープン参加のため公式記録では順位つかず)で、22位という結果でした。

4年連続で東北学連選抜に選出された片桐主将は、レース後、「今朝起きてから調子が良かった。最後まで楽しく気持ちよく走ることができた」と振り返り、「東北学連選抜には、来年こそ襷(たすき)をつないで上位進出を目指して頑張ってもらいたい。仙台大学には、2～3年後に単独チームで杜も都駅伝に出場できる実力をつけてほしい。後輩たちの走っている姿が見たい」と今後の活躍にエールを送りました。